

『ピア・サポートのきもちがあふれる藤岡小』

藤枝市立藤岡小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修
4月	チャレンジのステージ ・くすのきっこ顔合わせ	◎縦割り班の仲間の顔と名前を覚えよう	子どもを語る会 「高め合う子」 就学支援委員会
5月	・1年生を迎える会 ・運動会	※人間関係づくりプログラム（出会い）	特別支援教育研修会
6月	・くすのきっこ遊び① ・くすのきっこ読み聞かせ① ・代表委員会	◎遊び・読み聞かせを通して班の仲間と仲良くなろう	就学支援委員会
7月	・児童集会 「あいさつの輪を広げよう」	※人間関係づくりプログラム（聴き方）	就学支援委員会 小中合同研修会 「レジリエンス」
8月	ジャンプのステージ		特別支援教育研修会
9月	・自然教室（5年） ・くすのきっこ遊び② ・くすのきっこ読み聞かせ②	◎遊び・読み聞かせを通して班の仲間と仲良くなろう	
10月	・くすのきっこ遊び③ ・児童集会「ピア・サポート」 ・校内音楽会・クラブ活動	◎遊びを通して班の仲間と仲良くなろう ※人間関係づくりプログラム（自己表現）	
11月	・修学旅行（5年） ・くすのきっこ読み聞かせ③	◎読み聞かせを通して班の仲間と仲良くなろう	
12月	・くすのきっこ遊び④	※学校保健委員会（5・6年） 「レジリエンス」 ・赤い羽根募金活動	
1月	ありがとうのステージ ・代表委員会・児童集会 ・くすのきっこ読み聞かせ④	※人間関係づくりプログラム（対処・対応）	
2月	・くすのきっこ遊び⑤ ・ありがとう6年生の会	◎6年生・班のみんなに感謝の気持ちを伝えよう	就学支援委員会
3月		・ユニセフ募金活動	

福祉委員会を中心に「ピア・サポート見つけ」を行い、給食の放送や掲示板、児童集会等で紹介する

くすのきっこ活動を軸としたピアサポート活動の充実

1 本校のピア・サポート

藤岡小学校には、創立当初から大切にしている「くすのきっ子活動」という伝統がある。特別活動の一環として、1～6年生を赤8班、青8班の縦割り班に編制し、6年生が中心となって運営する。顔合わせに始まり、運動会の組み分けや、遊びや読み聞かせを計画・実行したり、児童集会等もくすのきっ子班で参加したりする。子供会での集団登校を行っていない本校にとっては、異学年集団での自治的な活動を行う、特色のある教育活動である。

また、ピア・サポートについても、日常の様々な場面で仲間を助け合う姿が見られ、それらを福祉委員会の「ピア・サポート見つけ」で紹介する活動として根付いている。本年度は、さらにレベルアップを目指して取り組みを行った。



2 特徴的な活動

① くすのきっ子活動「くすのきっ子遊び」「くすのきっ子読み聞かせ」(提言1, 2, 5, 6)

感染防止対策を施しながら、本年度のくすのきっ子活動を年間計画通りに行った。6年生による遊びの計画・実行に始まり、3年生までが順次計画を任せられ、当日の運営まで任せられる。4年生以下が計画を立てる際には、6年生が確認したりアドバイスをしたりして下学年をサポートしたり、遊びや読み聞かせ当日も、5・6年生が困っている下学年を優しくフォローする姿が見られた。こうした「くすのきっ子活動」を通して、高学年がまずは下学年のことを考えて行動しようとする、ピア・サポートの精神が培われている。

② 福祉委員会による「ピア・サポート見つけ」(提言3, 4, 6, 7)

福祉委員会は「ピア・サポートがいっぱいの藤岡小にしたい」を目標に掲げ、活動を行った。本年度もピア・サポートを見つけたらカードに書いてポストに入れ、給食時の放送で紹介をしたり、集まったカードを「ありがとう」の文字に掲示したりして、校内に広げた。しかし、カードを書くことに学年差が出てしまったり、放送されることを嫌がり書かないという姿があったりしたため、児童集会で「よりレベルアップしたピア・サポートをめざそう」と全校に伝えた。



③ あいさつがひびきわたる学校へ「自分で自分から先取りあいさつ」(提言1, 2, 4, 6, 8)

ジャンプステージの児童会の提案を受けて、6年生を中心に「自分で自分から先取りあいさつ」、さらに「気づいたらあいさつ」への取組が行われた。とにかく人を見かけたら、相手に届く大きな声で自分が先にあいさつをする6年生の姿がお手本となり、誰に対してもどんなときでも自分からあいさつをする児童が増え、あいさつがひびきわたる学校になってきた。これもピア・サポートの精神が根付いている本校の特徴的な活動と言える。

3 本年度の成果と来年度に向けて

○本校の子どもたちは、とても子どもたち同士の仲が良く、面倒見が良い児童が多い。特に高学年の児童が、低学年の児童に対して優しく教えたり見守ったりする姿が、本年度もたくさん見られた。本校の伝統が良い形で引き継がれていると思う。

○福祉委員会からの「ピア・サポートニュース」の放送を楽しみにしている児童が多い。もうすでにピア・サポートの精神は児童に根付いており、本校の文化であると言える。

○あいさつの広がりや、校内だけでなく地域にも広がりを見せ、地域の方からお褒めの言葉をいただいたり、来客者からも必ずと言ってよいほどあいさつを褒められたりした。子どもたちもあいさつに自信が持てるようになり、自己肯定感が高まっている。

・昨年度の反省を生かして「くすのきっ子活動」の回数を減らしたが、今年度は計画通りに行うことができた。来年度も継続したい。

・教職員は一人一人に目を向け、丁寧な言葉でやりとりをして価値づけたり、教員間で共有したりして、一人一人を大切にしている。更に来年度は人権感覚を磨いて人権意識を育てていきたい。